

2012.9-10

NO. **41**

Ohad Naharin
Batsheva
DANCE COMPANY
バットシェバ舞踊団『Sadeh 21ーサデ21』



特集 **人生に、劇場を** ～共にたのしむ、共につくる～

“ザ・ファクトリー” 始動! / オハッド・ナハリン インタビュー

ダニエル・ハーディング&新日本フィルハーモニー交響楽団 / 《春の祭典》特集

2012.9-10

NO. **41**

03

SPECIAL

人生に、劇場を ～共にたのしむ、共につくる～

聴く、触れる、学ぶ

夏休みオーケストランド!／光の庭プロムナード・コンサート『るるる・られる』／
宮川彬良&アンサンブル・ベガ／熊谷会館バレエ・セミナー

さいたまゴールド・シアターの現在

08

PLAY

さいたまゴールド・シアター&さいたまネクスト・シアターの新たな試み

“ザ・ファクトリー” 始動!

さいたまネクスト・シアター次回公演速報／『トロイアの女たち』

10

DANCE

見逃せないダンス映画が続々登場!

『dance on screen 2012』

12

DANCE

バットシェバ舞踊団『Sadeh21ーサデ21』

オハッド・ナハリン インタビュー

14

MUSIC

震災を経て強まった特別な“絆”

ダニエル・ハーディング (指揮)

新日本フィルハーモニー交響楽団

16

MUSIC

《春の祭典》特集

18

COLUMN

アーティストの原点 07 庄司紗矢香

19

REVIEW

2012.7-8 彩の国のアーツ

20

イベント・カレンダー／チケットインフォメーション

彩の国シネマスタジオ

23

THEATER BRIDGE



COVER

バットシェバ舞踊団『Sadeh21ーサデ21』

Photo © Gadi Dagon

SAITAMA ARTS THEATER PRESS 2012.9-10 No.41

編集◎市川安紀 [アルカディア社]、結城美穂子 デザイン◎中野一弘 [bueno]

©公益財団法人埼玉県芸術文化振興財団

Published on 15. September 2012 All Rights Reserved by Saitama Arts Foundation

※掲載情報は、2012年8月25日現在のものです。公演は追加および一部変更される場合がありますので、ご了承ください。

SPECIAL

特集

人生に、劇場を

～共にたのしむ、共につくる～

「劇場」とはどんな場所でしょうか。

ここでしか観られない演劇やダンスや音楽作品を創造し、

人生が豊かになるような遊びや楽しさをお届けすることがまずはひとつ。

でも、単に劇場側が「発信」し、お客様が「受け取る」一方通行ではありません。

時には親子一緒に参加して楽しんだり、創造する面白さを体験したり、

一流のアーティストと直に触れ合ったり、舞台裏や創造の現場を垣間見たり。

長い時間をかけてゆっくりと「ものづくり」「人づくり」を進めていく継続性も

公共の劇場としての大切な役割だと考えています。

小さなお子様からシニア世代まで、生活の中に当たり前のように

「劇場」の風景がある人生って、ちょっと素敵じゃありませんか。

Photo ©加藤英弘

Photo ©加藤英弘

Photo © Matron



オーケストラの迫力に驚き!

熊谷会館ファミリー・クラシック 夏休みオーケストラランド!

親子で楽しむコンサート、『夏休みオーケストラランド!』が今年は熊谷会館にやって来た。「あついぞ! 熊谷」のフレーズで有名な熊谷市の気温はこの日も36℃超え。その暑さにも負けず集まった観客の熱気で会場はさらにヒートアップ! まずは、華やかで勇壮な《キャンディード》序曲から。飯森範親さんの指揮で、

東京交響楽団の奏でる迫力満点のオーケストラ・サウンドがホールに響き渡る。ディズニーのメロディーにのせて、ナビゲーターの朝岡聡さんが、形も音色も様々な楽器を紹介した後は、小さなヴァイオリニスト、中学1年生の服部百音さんが登場。オーケストラとの息もぴったり、堂々と演奏する姿に子どもたちは感激の様子。100人以上の応募者から選ばれた3人のお友だちが、客席のみんなと一緒に飯森さんから指揮の振り方を教わり、実際にオーケストラを指揮する「指揮者にチャレンジ!」や、映画『となりのトトロ』の〈さんぽ〉を、各自持ち寄った楽器や歌でオーケストラと共演するコーナーも。オーケストラを間近に見て聴いて、生の音をたっぷり体感できる『夏休みオーケストラランド!』。大人も子どもも目を輝かせて会場をあとにする姿が印象的なコンサートとなった。
(7月29日 熊谷会館)



1 みんなでオーケストラと共演!
2 服部百音さんのヴァイオリンに感激
Photo ©加藤英弘

みんな
の声
アンケートより

「見たこともない楽器をたくさん見れたし、こんなにたくさんさんの楽器と一緒にきくと、とてもきれいでした」
「聴くだけでなく、会話や説明があり小さな子どもでも分かりやすく親子で楽しめました」
「多種類の楽器の音のすばらしさ、強弱、深い音色、心にひびきました。オーケストラの素晴らしさに感動しました」

音楽は楽しくなくちゃ!

宮川彬良&アンサンブル・ベガ

国内オーケストラのトップ奏者らが集うアンサンブル・ベガのコンサートは、必ず《すみれの花咲く頃》ならぬ《すみれの花咲く部屋》でスタートする。この日も素晴らしいアレンジの《すみれ〜》で幕開け。「彩の国さいたま芸術劇場、初登場でございます! お世辞でなくこんなに素晴らしいホールをお持ちで埼玉のみなさまはうらやましいっ!」と軽妙なトークで観客の心をつかむ宮川彬良さん。午前中

の第1部は未就学児も多いものの、百戦錬磨の出演者たちによるジェスチャーも交えた演奏に、飽きることなく耳を傾けている。演奏者自身の「演奏することの楽しさ」が、小さな子どもにもちゃんと伝わるようだ。第1部は「音の森☆森の音」、午後の第2部は「うたに生き愛に奏でて〜100%純正☆無添加演奏」と題して、それぞれのテーマに沿った楽しいお話も。考え抜かれた選曲はもちろん、「コント

ラバスはヴァイオリン属ではなくヴィオール属である」などというちょっと上級者向き「うんちく」や、各楽器の音色、特徴もさりげなく織り込んで、演奏もトークも心から楽しむことができる完成度の高い公演となった。大人も子どもも音楽の楽しさ、素晴らしさを実感できる「アンベガ」、ますます人気が高まりそう。
(8月11日 彩の国さいたま芸術劇場 音楽ホール)

宮川彬良さん(左から3人目)は楽しい音楽の世界への案内人 Photo ©加藤英弘

みんな
の声
アンケートより

「子どもにも分かるような丁寧な内容で、家族みんなで良い思い出となりました」
「がっきがすごくうまくてかっこ良かったです」
「音楽への愛がストレートに伝わる幸せなひとときでした」
「コンサートで演奏者の方のを知る機会は少ないですが、今回はとても身近に感じることができました。こんなに笑ったコンサートも初めてです」
「音が流れ、はなて、まわって、降ってきて、踊ってる様でした。聴いている私たちも思わず体がゆれました」

普段とはひと味違う体験ができる夏休みは、音楽の楽しさやバレエの真髄に触れられるイベントが目白押し。子どもの感性は至って正直で、面白いかそうでないかは彼らの反応を見れば一目瞭然。だからこそ、創り手も常に真剣勝負で向き合っている。一流アーティストたちと過ごした夏休みのひとときが、忘れられない思い出になるように。そんな願いをこめて行われたコンサートとワークショップの模様をお届けしよう。

トップダンサーに学ぶ「踊る心」

熊谷会館バレエ・セミナー

毎夏、熊谷会館のホール舞台上で行われる「熊谷会館バレエ・セミナー」。今年は小学6年生から大学生まで25名の未来のバレリーナたちが3日間にわたる指導を受けた。講師は、日本を代表するプリマ・バレリーナの酒井はな

さんと、国際的に活躍するダンサー・振付家の中村恩恵さん。酒井クラスでは、クラシックバレエの基礎と、『ジゼル』第1幕よりジゼルのヴァリエーションを、中村クラスでは近代のレパトリーを踊るための基礎と、中村さん自身が振付けた小品を学んだ。「ジゼルは特に演劇性が必要とされる役。今回はテクニックよりも、ジゼルはどういう娘で、どういう気持ちで踊っているのか、音楽とともに感じてもらいたかった」という酒井さん。中村さんは、「正しいことが何かではなく、一人一人の美意識や価値観、自分の心で感じることを振りどころにして、『自分の表現をする自由』があることをわかってもらえたら。現役のトップダンサーに教わる技術的なアドバイスはもちろん貴重だが、どちらのクラスも共通していたのが、踊りを通して想いや気持ちを伝えること。何よりも大切な「踊る心」を胸に刻むことのできた3日間だった。
(8月20日〜22日 熊谷会館)



1 酒井はなさんに基礎の大切さを学ぶ
2 中村恩恵さんと自分自身の表現を探す
Photo © Matron

みんな
の声
アンケートより

「丁寧に教えてくださったので、とても分かりやすかった」
「体のちょっとした動かし方で伝わり方が全然違うことが、実際に目で見ても理解できてとても勉強になった」
「踊りだけでなく、考え方や感じ方など様々な面でとてもためになった」
「舞台上でのレッスンはとてもぜいたくで、貴重な経験でした」

特集

人生に、劇場を
Part1

聴く、触れる、学ぶ

ようこそ、不思議な夢と空想の世界へ

光の庭プロムナード・コンサート 夏休みスペシャル!『るるる・られる』

土曜の昼下がり、自然光の降り注ぐ情報プラザで、ポジティブ・オルガン(パイプオルガン)の音色を楽しむ40分間のコンサート。「夏休みスペシャル!」では空間を大胆に使い、音楽とダンス、言葉、美術が織りなす夢のまた夢の世界が広がった。鍵盤ハーモニカや鈴、打楽器など、いくつもの楽器とオルガンが紡ぐ心地良い音色、リズムを刻んで発せられる言葉が会場に満ちあふれ、床いっぱいに広げ



たロール紙をダンサーの体に巻きつければ、蛇やダチョウ、象などの生物が次々と生まれ出す。ダンサーの新井英夫さんは、「子どものこのこれからオトナになっていく感受性の種のようなところ、大人の中のかつてコドモだった心。その双方に響くような『いのち』の不思議と歓びを謳う作品を届けたいと3.11以降特に感じていました」。オルガンのほか、10種類以上もの楽器を演奏した原田靖子さんは、「ポジティブ・オルガンの魅力を最大限に引き出したいと思いました。子どものために真剣に創ったものは、大人の心も自由にすることができるはず」。目の前に現れた幻想的な世界を、真剣な眼差しで見つめる観客。子どもも大人も、感性と想像力を大いに刺激される貴重な体験となったようだ。
(8月4日 彩の国さいたま芸術劇場 情報プラザ) ※8月18日 北本市文化センターでも開催



1 不思議な世界に国産をのんで
2 あら不思議、象さんが出現!
Photo ©加藤英弘

みんな
の声
アンケートより

「打楽器とオルガンが見事にマッチしていて不思議な世界でした」
「いつもコンサート嫌いの小学生の息子もとても楽しくのりのりでした」
「自由で豊かな音楽とパフォーマンス、いのちや宇宙を感じました」



6月に行われた男性陣の発表会「白鳥の歌」

7月に行われた女性陣の発表会「楽屋」



ヴッパタール舞踊団・瀬山亜津咲の指導でダンスのワークショップ

Photo◎宮川舞子



「ゴールド・ダンス公演」も生まれる予感?!

特集

人生に、劇場を

Part2

—さいたまゴールド・シアターの現在—

年を重ねて“非・枯れ要素”が増加するという、想定外。

蜷川幸雄と、現代日本の一流劇作家の貴重なタッグを、修練と発表の場にする。

ケタ外れに恵まれた環境に、物怖じする様子は見えない。

設立から6年。急速に“らしさ”を身につけてきた平均年齢73歳の演劇集団は、さらなる新展開を自分達で呼び寄せる。

取材・文◎徳永京子（演劇ジャーナリスト）

人生のリサイクルではなく、衝動

成長、という言葉を使うのに抵抗を感じる。メンバーの年齢を考えたら失礼に当たる、というのも理由のひとつだが、何より大きいのは、2006年の結成から現在までのさいたまゴールド・シアター（以下、ゴールド）の変容が、単純な右肩上がりではないことだ。その変化を表すのに適当な言葉は「迫力」ではないかと思う。

ゴールドを立ち上げる趣旨を、蜷川幸雄は「年齢を重ねた人々が、その個人史をベースに、身体表現という方法によって新しい自分に出会う場を提供する」と説明した。でも当時、この言葉をどれだけの人が実感をもって理解していただろう。長く続けた研鑽が、人なつこい哲学や瞬

間の浸透を生むことを、私達は落語や歌舞伎など古典芸能の名人芸で知っている。それらは、スピードやパワーという若さの武器を軽やかに越える。あるいは他にも、キューバのベテランミュージシャンによるブエナ・ビスタ・ソシアル・クラブや、70年代に舞台から映画にもなったカントールの『死の教室』などでも、年を重ねることでしか得られないものがあることを、強く学びもした。

ところが、ゴールドがこの6年で形にしてきたものは、そうした数々の事例にまるで収まらない。彼らの特徴は、関節、筋肉、記憶力等の衰えという“枯れ要素”と、やんちゃ、猛々しさ、伸びやかさ、色気といった“非・枯れ要素”の並立にある。それは間違いなく自然発生的なもので、

特に後者は、多くの人の想定外とするところだったと思う。人間はいくつになっても伸びしろがある、とわかってはいても、高齢者劇団と言われる年代の人々が“元気”や“深み”とは違うものを次々と手に入れると想像するのは、前例がないだけに難しい。でもここ数年のゴールドは、めきめきと“非・枯れ要素”のパーセンテージを上げている。これまでの人生経験を

蜷川幸雄の前で「楽屋」を披露



リサイクルするのではなく、「私には、まだまだ欲しいものがあります」と、未知のもの、自分がないものを求めて、目一杯に手を伸ばす。メンバーの大半が、演劇に興味がありながら、長いこと、俳優ではない時間を過ごしてきたことが関係しているのか、そこには、若い衝動とフレッシュな快感があるように感じられてならない。

「これは、あなた達にしか出来ないこと」

その印象は、この夏に行われた3本のワークショップ発表会を観て、一層、動かしがたいものになった。これまで5作の本公演と3回の中間発表会を公開してきたゴールドだが、公演を前提としない稽古も普段から続けており、3本のワークショップ発表会はその延長に位置づけられる。ただし、蜷川は途中段階は一切関知せず、最終の発表のみ観て講評するという、緊張感の伴うものだった。3本の内訳は、男性と女性に分かれた演劇作品を1本ずつと、全員によるダンス作品。

演劇は、蜷川の右腕であり、ゴールドの結成当時から稽古をつけている井上尊晶が構成・演出し、男性はチェーホフの『白鳥の歌』、女性は清水邦夫の『楽屋』を上演した。ダンスは、ピナ・バウシュが芸術監督を務めていたヴッパタール舞踊団の日本人メンバーである瀬山亜津咲が、特別講師として構成・振付を担当した。

これが、いずれも素晴らしい出来栄だった。『白鳥の歌』と『楽屋』は、どちらも

登場人物が少ないが、井上はこれを、ひとつの役を複数の俳優が演じるようにせりふを分けた。登場するのが俳優とプロンプターという共通点もある2本の戯曲は、光の当たる者と影になる者の差、取り戻せない時間に対する焦り、演じることに取り憑かれた狂気などが描かれているが、複数の俳優が、それも年齢を重ねた俳優がせりふを言うことで、ひとつの役に織り込まれている多層的な時間、揺れる人格、これまでにその役が演じられてきた歴史の断片が、次々と角度を変えて見えてくる。蜷川も「これはあなた達にしか出来ないこと。もっと精度を高めてお客さんに見せよう。そうしないと見えない」と珍しく絶賛し、本当に10月に公演を行うことになった。

ダンス作品は、瀬山の「人の動きを真似て踊るのもダンスですが、私は皆さんの内側にあるものを動きにしたものをダンスだと思っています」というポリシーを核に、男性チームには“男らしさ”、女性チームには“絶望から希望へ”をテーマに、参加者全員が自分で動きを考え、それを音楽に乗せた。そして最後は男女混合でダンスを披露。頭から指先まで優雅な紳士淑女がそこにいた。こちらは蜷川を「こんなに優雅なあなた達は観たことがない。やれば出来るんだね!」と感動させていたので、もしかしたら、ゴールドのダンス公演が生まれるかもしれない。間髪を入れず蜷川に「講師がいいとそうなるんです(笑)」と切り返した人達だ。“非・枯れ要素”はますます増加中なのである。この先、どんなことが起きても不思議はない。

さいたまゴールド・シアターの足跡

2006年

- 2月 団員募集
海外からの応募を含む1,266名が応募。
- 3月 オーディション
受験者数1,011名、15日間・延べ78時間にわたり実施。
- 4月 さいたまゴールド・シアター設立記者発表
団員48名(男性21名、女性27名、平均年齢66.7歳)で発足。
- 7月 中間発表公演
「Pro-cess ～途上～」
- 12月 第2回中間発表公演“Pro-cess 2”
『鴉よ、おれたちは弾丸(たま)をこめる』
作：清水邦夫

2007年

- 6月 第1回公演『船上のピクニック』
作：岩松了

2008年

- 3月 第3回中間発表公演“Pro-cess 3”
『想い出の日本一万年』
作：清水邦夫
- 5月 第2回公演
『95kgと97kgのあいだ』
作：清水邦夫

2009年

- 3月 フェスティバル/トークショー09春
招聘公演
『95kgと97kgのあいだ』
- 6月 第3回公演『アンドゥ家の一夜』
作：ケラリーノ・サンドロヴィッチ

2010年

- 9月 第4回公演『聖地』
作：松井周

2011年

- 12月 第5回公演『ルート99』
作：岩松了

“ザ・ファクトリー”始動！

蜷川幸雄率いる2劇団の新たな試み

さいたまネクスト・シアター
第4回公演

『オイディプス王』

上演決定！



『2012年・蒼白の少年少女たちによる「ハムレット」』（2012）
Photo ©宮川舞子

劇場内のすべてが 「表現の場」

この秋、彩の国さいたま芸術劇場が放つ新企画が動き出す。その名も“ザ・ファクトリー”。既存のホールにとらわれず、劇場のあらゆる場所を「表現の場」として作品を発表する試みだ。その船出として、さいたまゴールド・シアターとさいたまネクスト・シアターの連続公演が決定した。

まず第1弾には、ゴールド・シアターが男女に分かれて競作する『白鳥の歌』と『楽屋』の2本立て。前ページで紹介したように、稽古場での発表会に手応えを感じた蜷川幸雄の発案により、さらに練り上げ一般に披露することになった。平均年齢73歳のメンバーたちが、共に「役者」をテーマにしたチャーホフと清水邦夫作品に血肉を通わせる。演出は蜷川の演出補として数々の作品を支え、ゴールド創設から蜷川と共に指導にあたる井上尊晶が担当。大ホール内に特設劇場をしつらえ上演する。

続く第2弾は、ゴールドと対をなす若手俳優育成プロジェクト、さいたまネクスト・シアターによるテネシー・ウィリアムズの短編集を上演。『ガラスの動物園』を彷彿とさせる家族の追憶劇『ロング・グッドバイ』、降る雨に仮託した女の告白『話してくれ、雨のように』、没落した少女が語る『財産没収』、口うるさい母と鬱屈した息子を描く『火刑』という4本だ。演出は『ロング〜』『火刑』を蜷川幸雄、『財産〜』を井上尊晶、『話してくれ〜』を蜷川の演出助手を務める藤田俊太郎が手がける。3人の演出家がそれぞれの作品に合う上演場所を探すという試みも刺激的。いったいどんな「劇空間」が生まれるのか、ぜひ確かめてほしい。



さいたまネクスト・シアター第2回公演『美しきものの伝説』（2010）稽古風景
Photo ©宮川舞子

公演概要

“ザ・ファクトリー 1”

さいたまゴールド・シアター 『白鳥の歌』『楽屋』

日 時：10月16日(火)～26日(金) ※上演時間／2時間15分(予定)

10月	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26
	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金
14:00		★	★	★			休	★		★	★
19:00	★						演		★		

会 場：彩の国さいたま芸術劇場 大ホール内特設劇場
作：アントン・チャーホフ(『白鳥の歌(カルカース) ひと幕の習作』)、
清水邦夫(『楽屋―流れ去るものはやがてなつかしき―』)
翻 訳：松下 裕(『白鳥の歌(カルカース) ひと幕の習作』)
演 出：井上尊晶
出 演：さいたまゴールド・シアター
チケット(税込)
全席自由 一般2,000円 高校生以下1,000円
※2作品通しての料金です。1作品ごとの観劇はできません。
※本公演は大ホール内に設置する特設劇場での公演のため、座席の仕様が通常と異なるほか、座席数に限りがございます。
発 売 日：一般9月22日(土・祝) メンバース9月21日(金)

“ザ・ファクトリー 2”

さいたまネクスト・シアター／テネシー・ウィリアムズ短編集連続上演 『ロング・グッドバイ』『話してくれ、雨のように』 『財産没収』『火刑』

日 時：11月22日(木)～25日(日) ※上演時間／2時間30分(予定)

11月	22	23	24	25
	木	金	土	日
14:00		★	★	★
19:00	★		★	

会 場：彩の国さいたま芸術劇場 小ホール集合
※1作品ごとに会場が異なります。当日係員がご案内いたします。
作：テネシー・ウィリアムズ
翻 訳：倉橋 健(『ロング・グッドバイ』『財産没収』)
鳴海四郎(『話してくれ、雨のように……』)
内村直也・木村 優(『火刑』)
演 出：蜷川幸雄、藤田俊太郎、井上尊晶
出 演：さいたまネクスト・シアター
チケット(税込)
全席自由 一般2,000円 高校生以下1,000円
※全作品通しての料金です。1作品ごとの観劇はできません。
※本公演は劇場内特設会場での公演のため、座席の仕様が通常と異なるほか、座席数に限りがございます。
発 売 日：一般9月22日(土・祝) メンバース9月21日(金)

COMING SOON!

日本×イスラエルの 国際プロジェクト！ 蜷川幸雄演出 『トロイアの女たち』

数多くの海外公演を成功させてきた蜷川幸雄が、さらなる過激な国際プロジェクトに挑戦する。白石加代子、和央ようかを中心とする日本人俳優と、イスラエル国籍を持つユダヤ系・アラブ系俳優たちが一堂に会するギリシャ悲劇『トロイアの女たち』だ(東京芸術劇場、テルアビブ市立カメリ・シアター国際共同制作)。3年がかりでワークショップを行い、日本語、ヘブライ語、アラビア語が飛び交う異色の舞台となる。私たちの戦争に翻弄される女たちの悲劇は、戦争の絶えない現代にあって決して過去の物語ではない。宗教、人種、歴史を超えて、人は理解し合えるのか。困難な旅路にあえて挑む蜷川の激闘を見届けたい。



Photo © Maxim Reider

公演概要

さいたまネクスト・シアター第4回公演 『オイディプス王』

日 時：2013年2月14日(木)～24日(日)

2月	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24
	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日
14:00			★	★	休	★	★	★		★	★
18:30	★	★	★		演		★		★	★	

会 場：彩の国さいたま芸術劇場 インサイド・シアター (大ホール内)
※大ホール舞台上の特設客席のため、客席および椅子の形状が通常とは異なりますのでご了承ください。客席形状が決定次第、ホームページにてお知らせいたします。
作：ソフォクレス
演 出：蜷川幸雄
チケット(税込)
全席自由 一般4,000円 メンバース3,600円
発 売 日：一般11月24日(土) メンバース11月23日(金・祝)

公演概要

【提携公演】『トロイアの女たち』 会場：池袋・東京芸術劇場 プレイハウス

日 時：12月11日(火)～20日(木)

12月	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20
	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木
13:00						★				★
14:00			★	休					★	
18:00				★	★					
19:00	★	★	★				★	★	★	

会 場：東京芸術劇場 プレイハウス(中ホール)
※彩の国さいたま芸術劇場の公演ではございませんのでご注意ください。
作：エウリピデス
演 出：蜷川幸雄
出 演：白石加代子、和央ようか ほか 日本人俳優
＋イスラエルのユダヤ系俳優、アラブ系俳優
チケット(税込)
一 般：S席10,000円／A席8,000円
サイドシート6,000円／65歳以上7,000円
25歳以下4,000円／高校生割引1,000円
メンバーズ：S席9,500円／A席7,400円
※SAFチケットセンターではS席・A席のみ取扱い
発 売 日：一般10月13日(土) メンバース10月6日(土)
※メンバーズの方には別途ご案内するプレオーダーがあります。
チケット取扱：SAF チケットセンター 0570-064-939
東京芸術劇場ボックスオフィス 03-5391-3010

主 催：東京芸術劇場(公益財団法人東京都歴史文化財団)
東京都／東京文化発信プロジェクト室(公益財団法人東京都歴史文化財団)
共 催：テルアビブ市立カメリ・シアター
【公演に関するお問合せ先】
東京芸術劇場ボックスオフィス 03-5391-3010 (休館日を除く10:00～19:00)

20世紀のダンスの潮流を辿る! dance on screen 2012



フィリップ・ドゥクフレ『アブラカダブラ』

ダンス映画 500 本以上、ビデオ・DVD は 5500 本以上を所蔵しているフランスのラ・シネマテック・ドゥ・ラ・ダンスのコレクションから、選りすぐりのダンス映画を上映する「dance on screen 2012」。なかには目にする機会がほとんどない貴重な作品も含まれており、知的好奇心が大いに刺激されそう。特におすすめの作品をここにご紹介。

Photo © La Cinémathèque de la Danse



ヌレエフとバビレ

スターダンサーの素顔を垣間見る

『ヌレエフ・イン・スポレート』－Nureyev in Spoleto

監督：フィリップ・コリン＝ビエール＝アンドレ・ブタン 振付：ルドルフ・ヌレエフ(原振付：マリウス・ブティバ)

ソ連から亡命したばかりのルドルフ・ヌレエフを追ったドキュメンタリー。ロシア・バレエのエレガンスと驚異のテクニクで西側のバレエ界を驚嘆させた若き天才ダンサーは、マーゴ・フォンテインやロイヤル・バレエのメンバーたちと共に、イタリアのスポレート・フェスティバルで、『ライモンダ』全幕上演を成功させる。キーロフ・バレエ時代の記

憶をたよりにヌレエフが再現振付したこの舞台が、ロシア以外で初めての全幕上演となった。当初は対談を拒否したヌレエフへのインタビューが大変に興味深い。紛失したと考えられていたこの映画は、ラ・シネマテック・ドゥ・ラ・ダンスによって再発見された貴重な映像。日本初上映。(1964 年／ 53 分)

『神秘のダンサー ジャン・バビレ』－Le Mystère Babilée

監督：バトリック・ベンサール

超絶技巧と跳躍に優れ、また独自の表現を探索するアーティストとしてフランス・バレエの一時代を築いた〈フランスのニジンスキー〉、ジャン・バビレ。この映画では、ダンサーであるバビレがすばらしい語り手として、芸術的冒険への飽くなき情熱を語り、またいくつかの私的な記憶を謙虚に回想する。この映画にはクリスチャン・ラクロワ、モーリス・

ベジャールなど当代随一のアーティストによる多くの証言が盛り込まれている。バビレ最大の当たり役ともいえるのがローラン・ブティ振付の『若者と死』だが、ブティとのリハーサル風景が見られるのも贅沢だ。〈ダンス界の恐るべき子供〉と称されたアーティストの型破りなキャリアの道のりを辿る。(2000 年／ 90 分)



マーサ・グレアム

アメリカン・モダンダンスの黎明期

『異端者』－Heretic

振付：マーサ・グレアム

厳格なバレエの規範にたいするアンチテーゼとして、より自由な表現を求めて誕生したアメリカのモダン・ダンス。その最重要人物がマーサ・グレアムで、人間の精神的苦悩やギリシャ神話を素材としたドラマ性の強い作品を数多く発表した。『異端者』はラ・シネマテック・ドゥ・ラ・ダンスがアメリカで発見した、トーキー映画誕生当初の未編集の発声映画。(1929 年／ 4 分)

『ラメンテーション』－Lamentation

振付：マーサ・グレアム

「1930 年のダンス『ラメンテーション』は、私が大きな布に閉じ込められているソロの作品です。身体につきまとう悲劇、そして、自身の皮膚の内側へと広がり、全ての人に共通する深い苦悩の輪郭と境界を知覚し、考察する能力を示唆する、一つの方法」－マーサ・グレアム『血の記憶』(1991 年)より。(1950 年／ 8 分)

『アパラチアの春』－Appalachian Spring

監督：ピーター・グルシャノク 振付：マーサ・グレアム

ある結婚式を通じて描かれた、アメリカの開拓者コミュニティの歓び、希望、そして苦悩を描く。開拓時代のアメリカはグレアムの創作でたびたび取り上げられるテーマの一つ。アメリカ人作曲家のアロン・コーブランドが音楽を、日系アメリカ人の彫刻家 イサム・ノグチが舞台美術を手がけた、同時代のアメリカの創造性が結実した「アメリカのダンス」を代表する作品 (1958 年／ 31 分)。



『ラメンテーション』

フラメンコ

民族系ダンスの一つの潮流

『ドゥエンデ&フラメンコ』－Duende & Flamenco

製作：ラ・シネマティック・ドゥ・ラ・ダンス

エドガー・ネヴィル監督『ドゥエンデ・イ・ミステリオ・デル・フラメンコ (邦題：フラメンコの魔性と神秘)』(1952 年)からの抜粋ほか、伝説のダンサー、ピセンテ・エスクデロやカルメン・アマヤの記録映像、世界的舞踏家の大野一雄が舞踏の道に入るきっかけとなった、スペイン舞踊家ラ・アルヘンチーナの映像も収められている。土着的なフラメンコの映像も収録。必見。(2011 年／ 90 分)



アンヌ・テレサ・ドゥ・ケースマイケル

先端をひた走るローザス

『アクターランド』－Achterland

監督／振付：アンヌ・テレサ・ドゥ・ケースマイケル

ベルギー・ダンスシーンの代表格アンヌ・テレサ・ドゥ・ケースマイケルとそのカンパニー「ローザス」。綿密に分析された音楽の構造と身体の動きのパターンとを関連させた振付で知られるが、イザイとリゲティの音楽にあわせて踊るこの作品では、音楽とダンスの間、男性と女性の間に存在す

る緊張を描いてみせる。1983 年、女性 4 名で始まったカンパニーに、初めて男性ダンサーが加わった作品。陽気でエネルギー豊かなダンスと、ミニスカートのスーツにハイヒールという衣裳で、男女の日常のしぐさを発展させたローザスならではの表現も健在。(1994 年／ 60 分)

ピナ・バウシュ

ピナの創作に迫るドキュメンタリー

『ある日ピナが尋ねました』

－ Un jour Pina a demandé

監督：シャンタール・アッカーマン 振付：ピナ・バウシュ
出演：ピナ・バウシュ、ヴッパタール舞踊団

ドキュメンタリー作家のシャンタール・アッカーマンが、欧州ツアー中のピナを追った作品。『私と踊って』(1977 年)、『コンタクトホーフ』(1978 年)、『1980 年ーピナ・バウシュの世界』(1980 年)、『ワルツ』(1982 年)、『カーネーション』(1982 年)などの舞台映像の抜粋、ダンサーたちへのインタビュー、ヴッパタールでのリハーサル風景をとおり、振付家ピナ・バウシュの創作手法を垣間見られる貴重なドキュメンタリー。(1983 年／ 57 分)

『ピナ・バウシュ作品抜粋集』

－ Bilder... aus Stücken der Pina Bausch

監督：ケイ・キルヒマン 振付：ピナ・バウシュ
出演：ピナ・バウシュ、ヴッパタール舞踊団

ピナの主要作品から『パレルモ、パレルモ』(1989 年)、『彼は彼女の手を取り城に誘うー皆もあとに従う』(1978 年)、『カーネーション』、『ワルツ』の 4 作品を抜粋収録。コラージュされた舞台映像とならんで、ピナが自らの創作について語る撮り下ろしのインタビューが収められていて、ピナ・バウシュの作品を知るうえで大変興味深い。(1990 年／ 60 分)



『カーネーション』

公演概要

dance on screen 2012

日 時：11月2日(金)～4日(日)
会 場：彩の国さいたま芸術劇場 映像ホール
チケット(1日券・全席自由・税込)：
2日 一般1,000円／学生500円
3日・4日 一般1,800円／学生1,000円
発 売 日：一般 9月30日(日) メンバーズ 9月29日(土)

※製作状況により、一部画像および音声不鮮明な上映作品もございます。
※公演情報は2012年8月現在のものです。やむを得ぬ事情により、作品プログラム、上映時間、上映順が変更になる場合があります。予めご了承ください。
※作品はすべてデジタル上映です。
※途中退場、再入場可。

■11月2日(金)
19:00～『ヌレエフ・イン・スポレート』(53分)
20:10～『神秘のダンサー ジャン・バビレ』(90分)

■11月3日(土・祝)
13:00～『ラ・シネマテック・ドゥ・ラ・ダンスのお気に入り』(22分)
『異端者』『ラメンテーション』『アパラチアの春』(43分)
『ザ・トレイター (裏切り者)』(20分)
14:40～『チャネルズ／インサーツ』(32分)
『ルシнда・チャイルズ』(52分)
『モンタージュ イリ・キリアン』(36分)
16:55～『ドゥエンデ&フラメンコ』(90分)
18:55～『ドイツ表現主義のダンス』(83分)
『ある日ピナが尋ねました』(57分)

■11月4日(日)
13:00～『マギー・マラン その作品の変遷ー(ウムヴェルト)に辿り着くまで』(70分)
14:25～『アクターランド』(60分)
『ミュージック・ドゥ・ターブル(テーブルの音楽)』(8分)
『アブラカダブラ』(37分)
16:25～『エンター・アキレス』(50分)
17:45～『ヌレエフとジョフリー・バレエ ニジンスキーへのオマージュ』(90分)
『ピナ・バウシュ作品抜粋集』(60分)



オハッド・ナハリン Ohad Naharin

© Nero

1952年イスラエル生まれ。20代から舞踊を始め、ダンサーとしてバットシェバ舞踊団で活躍の後、ジュリアード音楽院で学ぶ。80年に振付家としてデビュー。90年バットシェバ舞踊団の芸術監督に就任し、『キール』、『マプール』、『アナフェイス』など次々に話題作を発表。彼の作品はネザールランド・ダンス・シアター、リヨン・オペラ座バレエ団、パリ・オペラ座バレエ団など世界中の著名なバレエ団で踊られており、現在世界で最も注目される振付家の一人である。

取材・文◎上野房子（ダンス評論家）

——バットシェバ舞踊団のホームページで、『Sadeh21ーサデ21』の舞台映像が公開されています。整然としたステップから破天荒な身振り手振りまで、変幻自在のムーヴメントが、ダンスの根源、さらには人間という存在の多様性を映し出しているようでした。

この作品を作るにあたり、まず、リサーチをしました。人間の価値観とは何か。何を考え、どんな感情を持ち、五感

で何を感じ取るのか。人間は、肉体だけでできたものではありません。それから、可能性についても。肉体的に何が出来るのか。どうやって意思決定をするのか。何を選択して、それらをどうやって組み立てるのか。試行錯誤しながら、作品を構築していきました。

——昨年5月に初演された際、ナハリンさんのこの最新作は、スタンリー・キューブリックの映画『2001年宇宙の旅（原題：Space Odyssey）』を想起させる、と評されたそうです。果たしてこの作品は、観客をどのような旅に誘うのでしょうか。

オデュッセイア……。私自身の言葉ではないけれど、おもしろい喩えですね。私とダンサー達は、何が自分を自分たらしめているのか、ということを探求する旅をしたわけだから。シネマスコープのように空間を構成した場面があるし、映画音楽のように音楽を使った演出がある。

Space Odyssey)』を想起させる、と評されたそうです。果たしてこの作品は、観客をどのような旅に誘うのでしょうか。



Ohad Naharin

バットシェバ舞踊団芸術監督・振付家
オハッド・ナハリンインタビュー

自己を探求する旅 壮大な身体の叙事詩

最新作『Sadeh21ーサデ21』を引っさげ、2010年に続きバットシェバ舞踊団がここ彩の国で公演を行う。来日に先駆け、芸術監督のオハッド・ナハリンに作品の創作プロセスや見どころについて語ってもらった。

Photo◎ Gadi Dagon

あの映画を連想してもらえたのなら、嬉しいですよ。

——タイトルの〈Sadeh〉は、ヘブライ語で〈フィールド〉を意味するそうですね。

英語のフィールドとは、少しニュアンスが違います。サデは、単なる広い空間ではなく、大自然の存在を感じさせる。真ん中という意味合いもある。感傷的なタイトルにしたくなかったので、〈21〉という数字をつけてみました。数字は時間の感覚やリズム感を内包しているし、数学や幾何学にも通じています。もっとも、タイトルが作品のすべてを代弁している訳ではないのですが。

——ダンサーが〈コラボレーター〉と記されています。彼らはどのように創作に関与したのですか。

リサーチとは、自分の限界を知ることであり、その限界を超えるために、他人の経験から学ぶ必要があります。何もないところから、何かを発見するのではありません。ダンサーは、私が独力では考え出せない答えを提示し、新たな可能性をもたらしてくれた。彼らは、私にとって創作のいわばパートナー、アドバイザーですね。

——具体的な創作プロセスを教えてください。

いくつかの決まり事をつくって、その決まり事に従って、会話を進めました。ダンサーが言葉ないしムーヴメントを私に返すわけです。私のダンサーはインプロヴィゼーションが得意だけれど、今回はインプロを封印し、すべてを緻密に構

成しました。自由に考え、想像した結果、選択肢を広げられるのではないかな。ユニゾン回避した場面もあります。気が向かなければ、決まり事を破ってもいい、という決まり事も適用しました。例外があるのも、決まり事の面白いところです。

——ナハリンさんの作品は、静寂と喧噪、繊細さと剛胆さというように、相反する要素が重層的に絡み合っています。『Sadeh21』では、ダンサーが縦横無尽に乱舞して様々な感情を噴出させた後、すべてが反転したかのような情景が出現するそうですね。

私は物事を複合的にとらえるのが好きです。たった一つのアイディアに固執して、創作することはしません。『Sadeh21』では、複数のミッションを持った、様々な〈Sadeh〉を創出させました。観客も様々なメッセージを受け取り、複合的な経験をすることになるでしょう。

——バットシェバ舞踊団の公演を見る毎に、ダンサーが発するパワーに圧倒されます。しなやかで、強靱で、繊細。その秘密は？

彼らは、才能と想像力と情熱によって磨き上げられた精鋭です。バットシェバ・アンサンブル(ジュニア・カンパニー)団員のなかから、自分の才能をさらに成長させる能力を持ち、考え方がオープンで、探究心があり、〈GAGAダンサー〉を体得したダンサーを選びすぐって、舞踊団に受け入れています。

——ナハリンさんが考案したバットシェバ舞踊団の公式メソッド「GAGA（ガガ）」

は、彩の国さいたま芸術劇場他、日本でもワークショップが行なわれています。その特徴は？

ひと言で言うと、自分自身の体に向き合うことです。自分のムーヴメントの音色に耳を傾け、その特性を理解し、感覚が衰えている箇所を把握する。あるいは、爆発的なパワーや、動物的な本能を覚醒させる。踊りに必要なイマジネーションを活性化させるトレーニング、と言ってもいいですね。

——前回の『MAX』から2年ぶりの来日公演です。日本の観客へメッセージをお願いします。

日本の観客という括り方で語るのは難しいです。ダンサー各人が異なる個を持っているように、観客もまた、異なる個の集団だと私は考えているからです。とはいえ、違いがある一方で、分かち合える共通項がたくさんあるはずですよ。日本の観客の皆さんともきっと理解し合えるでしょう。日本公演を心待ちにしています。



公演概要

バットシェバ舞踊団 『Sadeh21ーサデ21』

日 時：11月23日(金・祝)開演15:00
24日(土) 開演15:00
※上演時間／1時間15分(予定)・途中休憩なし
会場：彩の国さいたま芸術劇場 大ホール
振付：オハッド・ナハリン
出演：バットシェバ舞踊団(18名)
チケット(税込) 好評発売中
一般：S席6,000円／A席4,500円(学生3,000円)
メンバーズ：S席5,400円／A席4,000円

【関連企画】

オハッド・ナハリンの動きのメソッド、
「GAGA」ワークショップ開催決定!

※ワークショップの詳細、参加申込方法等は決定次第、
財団ホームページ (http://www.saf.or.jp/)、
GAGAJapan ホームページ
(http://www.gaga-japan.org/) でお知らせいたします。

Batsheva
DANCE COMPANY

ダニエル・ハーディング(指揮) 新日本フィルハーモニー交響楽団

4月に軽井沢大賀ホルの芸術監督に就任、8月にはサイトウ・キネン・フェスティバル初登場と、日本でも充実の活躍ぶりの若き指揮者、ダニエル・ハーディング。3.11以来特別な絆で固く結ばれ、宿命をともにする新日本フィルハーモニー交響楽団との公演が12月に行われる。

「3月11日」から未来へ 深まるハーディングとの絆



Photo © K.MIURA

文◎飯尾洋一（音楽ライター）

ダニエル・ハーディングといえば、才能にあふれ、若くして頭角を現した世界的指揮者である。すでにウィーン・フィルやベルリン・フィルのようなトップクラスのオーケストラともたびたび共演する、クラシック音楽界のスーパーエリート。

というのが、ほんの少し前までのダニエル・ハーディングの人物像だった。しかし2011年の3月をきっかけに、彼は日本の聴衆にとって特別な存在になった。ご縁が深まった、という言い方では軽すぎるだろうか。

忘れもしない2011年の3月10日、新日本フィルはダニエル・ハーディングの「Music Partner of NJP」就任の記者会見を開いた。場所はすみだトリフォニーホール。あのハーディングが、なんと、日本のオーケストラにポストを持つ。これは瞠目すべきニュースである。会場には大勢のジャーナリストや音楽関係者が詰めかけた。当日は会見に先がけて、ジャーナリスト向けの公開リハーサルも行われた。曲はマーラーの《交響曲第5番》。ハーディング流とでも言おうか、細

部まで意匠に富んだ鮮烈なマーラーが生まれつつあった。オーケストラの反応もすこぶるよい。

翌日の本番は大成功に終わるのではない。いや、この公演のみならず、ハーディングと新日本フィルは、日本のオーケストラの歴史に新たな足跡を残すような名コンビになるかもしれない。そんな予感を得て、会見場を後にした。

そして翌3月11日の午後。突然、これまでに経験したことのない激しい揺れがやってきた。あわててテレビをつけると、

公演概要

ダニエル・ハーディング(指揮) 新日本フィルハーモニー交響楽団

日時：12月1日(土) 開演14:00
会場：埼玉会館 大ホール
曲目：チャイコフスキー／交響曲第4番 へ短調 作品36
ストラヴィンスキー／バレエ音楽《春の祭典》

チケット(税込) 好評発売中

一般：S席 6,500円／A席 5,500円／B席 4,500円(学生2,000円)
メンバーズ：S席 6,000円／A席 5,000円／B席 4,000円



Photo © Harald Hoffmann/DG

ダニエル・ハーディング(指揮)

Daniel Harding, conductor
Music Partner of NJP

1975年、イギリス生まれ。94年にバーミンガム市交響楽団を指揮してプロ・デビュー。96年にベルリン・フィルにデビュー、ロンドンのBBCプロムスに史上最年少指揮者として登場。トロントハイム交響楽団の首席指揮者、ドイツ・カンマーフィルハーモニー・プレーメンの音楽監督などを歴任し、現在は、スウェーデン放送交響楽団の音楽監督、ロンドン交響楽団首席客演指揮者。10/11シーズンからは新日本フィルハーモニー交響楽団で「Music Partner of NJP」、12年4月からは軽井沢大賀ホルの芸術監督に就任。またマーラー・チェンバー・オーケストラ(MCO)では98年から11年6月まで首席指揮者や音楽監督を歴任した。日本へはMCOと13年6月に、スカラ座の引越し公演で13年9月に来日予定。新日本フィルでも13年6月をはじめ定期的な出演を予定している。

公式ホームページ <http://www.danielharding.com>

震源は三陸沖だという。震源がそんなに遠いのに、東京でこんなに揺れるとはどういことだろうか。まもなく、今度は茨城県沖を震源とする地震が続いた。東京は震度5強。なにが起きてもおかしくない激烈な揺れだ。テレビでは津波が東北を襲い、リアルタイムで人々の命が奪われてゆく凄惨な映像が中継されていた。

首都圏でも余震は収まらず(この日は一晩中、間歇的に揺れ続けた)、交通機関は麻痺し、大勢の人々がオフィスから自宅に帰宅できなくなった。電話は通じない



Photo © K.MIURA

新日本フィルハーモニー交響楽団(管弦楽)

New Japan Philharmonic

「一緒に音楽をやろう!」1972年、指揮者・小澤征爾のもと楽員による自主運営のオーケストラとして創立。97年より墨田区・すみだトリフォニーホールを本拠地とし定期演奏会などを行う他、地域に根ざした演奏活動も特徴的。2003年よりクリスティアン・アルミンクが音楽監督に就任。10/11シーズンより、ダニエル・ハーディングが「Music Partner of NJP」として指揮者陣に加入。2013年秋より、インゴ・メッツマッハーがConductor in Residenceに就任する。主な受賞歴は、三菱UFJ信託音楽賞(10年、アルミンク指揮)、ミュージック・ベンクラブ音楽賞(10年、ブリュッヘン指揮)など。

公式ホームページ <http://www.njp.or.jp/>

公式Twitter <http://twitter.com/newjapanphil/>

が、メールやソーシャルメディアを通じて、身近な人たちの安否を確認した。

そんな状態の中で、ハーディングと新日本フィルは演奏会を決行した。その様子はNHK総合のドキュメンタリー『3月11日のマーラー』でもとりあげられたので、番組をご覧になった方も多いだろう。もちろんお客の大半は会場に来ていない。オーケストラはがらがらのホールで演奏会を開いた。

実は当日の状況は、ハーディング本人のTwitterアカウントによっても伝えられていた。3月11日にハーディングがたまたま東京に居合わせたことは、世界中の音楽ファンや関係者に瞬間に伝わった。私も自分のTwitterの画面を通して、ハーディングがどうやらこの日、マーラーを指揮したということを知った。さらにハーディングとイギリスの音楽評論家ノーマン・レブレヒトがTwitter上で、東京の状況についてやり取りをしているのも見えた。ハーディングは、「50人のためにマーラーの5番を演奏した。残りの1750人の無事を祈る」「コンサートホールまで徒歩で4時間もかけてやってきた年配男性がいた。これこそ音楽への献身だ」と、ツイートしていた。

なんだか奇妙な感じがした。未曾有の災害が日本を襲い、これからどうなるのかわ

からない、電車は動かずどこにも行けなし、近所でどんな被害があったのかなかったのかもよくわからないが、インターネットを通じてすみだトリフォニーホールでなにが起きたかはわかるのだから。

大半の人々にとって幻の公演となったマーラーの《交響曲第5番》は、その後、6月にチャリティ公演として再演され、収益は東日本大震災義援金として寄付されることとなった。終演後、ハーディングは自ら募金箱を持ってホールのホワイエに立った。震災を通じて新日本フィルと、そして聴衆との絆がよりいっそう強くなったというハーディング。聴衆の側にとってもそれは同じだろう。ハーディングは音楽家はどうふるまうべきかを、身をもって示してくれた。

この12月、ハーディングと新日本フィルは、チャイコフスキーの《交響曲第4番 へ短調》とストラヴィンスキーのバレエ音楽《春の祭典》という重厚なプログラムを持って、埼玉を訪れる。襲いかかる運命と苦闘して乗り越えるという《交響曲第4番》のドラマ性、そして斬新なリズムの駆使によって20世紀音楽に新たな地平を切り拓いた《春の祭典》の革新性。強く結ばれたこのコンビだからこそ聴ける、鮮やかで迫真性に満ちた音楽が生まれることだろう。



イーゴリ・ストラヴィンスキー

クラシック音楽の常識を覆した 春の祭典

ストラヴィンスキーの3大バレエ作品《火の鳥》《ペトルーシュカ》《春の祭典》はいずれもバレエ・リュスによって初演された。《火の鳥》でヨーロッパ・デビューを飾り、大成功を収めたストラヴィンスキーは、以後、ピアニスト、作曲家として活躍することとなる。ストラヴィンスキー作品の中でも人気が高く、20世紀音楽の代表作として各地で演奏される《春の祭典》だが、その初演は特にセンセーショナルで、歴史的な騒動となったのだった。

バレエ・リュスとの出会い

イーゴリ・ストラヴィンスキー（1882-1971）は、パブロ・ピカソ（1881-1973）とほぼ同時代を生きた20世紀の作曲家。作曲は、管弦楽法¹⁾の大家リムスキー＝コルサコフから個人的に教えを受けた。

20世紀初頭、パリのバレエは卑俗化し、劇場は新興ブルジョワジーがパトロンとなるために踊り子を物色しにくる場所となっていた。そこに、興行師セルゲイ・ディアギレフは、メイド・イン・ロシアのスラブ色の濃い、オリエンタルな雰囲気をもたえた目新しいバレエを持ち込み、彼の率いるバレエ・リュス（ロシア・バレエ団）²⁾は大変な人気を呼んでいた。リムスキー＝コルサコフの娘の結婚祝いとして、ストラヴィンスキーが作曲した《花火》に注目したディアギレフは、ストラヴィンスキーにバレエ音楽を依頼する。こうして初期の傑作といわれる3大バレエ作品《火の鳥》《ペトルーシュカ》《春の祭典》が次々に生まれていった。

音楽史上に残る大騒動

1913年、バレエ・リュスによる《春の祭典》の初演は、空前絶後の大混乱を引き起こした事件として語り継がれている。会場となったパリのシャンゼリゼ劇場にはドビュッシー、ラヴェル、サン＝サーンスといった面々も姿を見せた。ピエール・モントゥーの指揮による演奏開始後すぐに嘲笑が渦巻き、野次が飛び交い、観客の抗議の足踏みはひどく、とても音楽が聴こえる状態ではなくなってしまった。その様子にいたたまれず、ストラヴィンスキーが舞台裏にまわってみると、騒動で音楽が聴こえないダンサーの

ために、振付のニジンスキーが舞台袖から必死で拍をカウントして合図を送っている。「最後まで静かに聴いて下さい」とアナウンスが入るも騒ぎは続き、サン＝サーンスは「楽器の使い方を知らない」と怒って途中で帰ってしまったという。

時代のはるか先をいく作品

これほどまでの大騒動を巻き起こしたのは、この作品の革新性にあった。作品の着想は、キリスト教化される以前のロシアの原始的な宗教儀式で、第1部の「大地礼賛」ではロシアの原野で人々が大地に祈りを捧げ、続く第2部「犠牲」では太陽神を鎮めるために処女の生贄が捧げられるというものだ。原題“Le Sacre du Printemps”（春の生贄）からわかる通り、なんとも土俗的で残酷な内容で、当時のバレエでは到底扱われないようなテーマである。

音楽も、観客がそれまで慣れ親しんできたものとはほど遠いものだった。耳馴染みのよいメロディらしいメロディのかわりに、原始的なエネルギーに満ちた複雑極まりないリズムが曲全体を貫いている。また、複数の調が同時に演奏され、拍子は小節ごとにくらりと変わり、オスティナート（リズムや音程が執拗に繰り返される技法）が用いられ迫力が一層増したうえに、5管編成の分厚いオーケストラによって、怒濤のカオスがエネ

ギーをはらんで突き進んでいく。そのプリミティブで本能的、生命力を感じさせるこの曲は、今まで誰も聴いたことのない新しい響きを持っていた。

振付は、バレエ・リュスの看板スター、ワスラフ・ニジンスキーが担当した。ダンサーは、下半身の大部分を覆う丈の長い、決しておしゃれとは思えぬ民族調の衣裳を身にまとい、その動きは、常に体を外に開いた状態で背筋を伸ばして、つま先は外を向いていなくてはならないというバレエの基本から大きく逸脱したものだ。膝を曲げ、脚を内股にして首を傾げ、地面を踏みしめる踊りは、優美なバレエを見慣れてきた観客の度肝を抜いたのだ。

それまでの伝統や常識を覆した《春の祭典》は、あまりにも強烈な印象を観客に与えたために、初演時の観客は驚き拒否反応を起こした。しかし、その独創的で根源的なエネルギーを秘めた《春の祭典》は聴く者の心を揺さぶり、新しい芸術への道標として大きな影響を後世に与え続け、今では20世紀音楽の始まりを告げた記念碑的作品として、その地位を確立している。

ライブで聴く醍醐味

《春の祭典》は何よりライブで楽しむに限る。まず音響がすばらしい。5管編成という、オーケストラで最も大人数を要

『コメディア・イリュストレ』誌
1913年6月号より『春の祭典』（兵
庫県立芸術文化センター 薄井憲二
バレエ・コレクション蔵）



する編成を必要とし、管楽器と打楽器で45人も必要になる。これが半端でない大迫力で、会場全体の空気がダイナミックに動くのが体感できるのだ。さらにあまり出番のない珍しい楽器が登場する。バス・トランペット、アルト・フルート、コントラ・ファゴット、コール・アングレ、ワーグナー・チューバなどが登場しソレをとったりするので注意して聴いていたい。

そして叫びまくる管楽器群、不穏な空気を醸す木管楽器たち、リズムでも旋律でも一心不乱に弾き続ける弦楽器群など、複数の楽器が絡み合い、カオスな大所帯を上手に交通整理する指揮者にぜひ注目いただきたい。どうにも收拾がつかなくなりいったん止めて途中から演奏をやり直したといったエピソードもあるくらいで、演奏者も大変だがそれをまとめる指揮者の力量も問われる曲なのだ。

ヒト、モノ、あらゆる点において桁違いのスケールのこの作品を演奏することは、ある種オーケストラの「総合力」を示すことにもなる。演奏者はかなりの気合いを必要とする作品なので、客席側も熱い視線を送り白熱した演奏空間を作り出したい。

¹⁾ 管弦楽法
管弦楽（オーケストラ）のために作品を作曲、編曲する場合、音響効果、演奏目的を考慮し、管弦楽を効果的に機能させるための楽器編成の理論

²⁾ バレエ・リュス
興行師セルゲイ・ディアギレフが率いたロシアのバレエ団。ワスラフ・ニジンスキー、タマラ・カルサヴィナ、レオニード・マシニン、セルジュ・リファール、ジョージ・バランシンといった稀代のダンサーが活躍。イーゴリ・ストラヴィンスキー、エリック・サティ、パブロ・ピカソ、アンリ・マティス、ジャン・コクトー、ココ・シャネルなど、当時の最先端をゆく芸術家もバレエ・リュス作品の創造に携わり、ヨーロッパの舞台芸術の第一線を走り続けた。活動期間は1909年から1929年の20年間。

Sayaka Shoji

ヴァイオリニスト 庄司紗矢香

名だたる指揮者・オーケストラと共演を重ね、国際的な活躍を続ける庄司紗矢香さん。幼い頃から自然と国際感覚を身に付け、様々な国の文化を吸収したことが、現在の彼女をかたちづけているという。

取材・文◎片桐卓也（音楽ライター）



Photo ◎ Kishin Shinoyama

「今の私はミネストローネのようなものです」

ヴァイオリンとの出会い

私の記憶の中で一番最初に出てくる音楽はイタリアの歌です。母の留学にこついで、シエナという街に2年間ぐらゐ滞在中にいました。3歳から5歳ぐらゐの時期です。イタリア語も知らなくて、ちょっとだけの自己紹介を覚えてだけで、いきなりシエナの幼稚園に入りました。でも、自分では記憶にないけれど、3日ぐらゐ経ったら自然にイタリア語を話し始めていたらしい。幼稚園で歌っていた歌はまだメロディを覚えています。

そのシエナでヴァイオリンに出会いました。ウト・ウーギさんのリサイタルを聴きに行ったそうです。それで「あの楽器なら自分でも出来そう」と思ったのが、ヴァイオリンを始めるきっかけでした。メカニカルなピアノと違い、まるで歌のように自然に音を伸ばせて、ヴィヴァートも付けられる。イタリアの街角で歌うオジサンを聴いて、自分も歌いたいと思ったけれど、ちょっと声が低くて（子どもなのにみんなが驚くほど声が低かったのです）ダメでし



講習を受けたこともあるウト・ウーギ氏と

とヨーロッパを貧乏旅行して、シエナの友達や幼稚園のシスターに再会することも楽しかったです。そして、小学校の高学年ぐらゐからシエナのキジアーナ音楽院の夏季講習でウーギ先生の講習を受けるようになりました。5年ぐらゐ通っていたと思いますが、ウーギ先生だけでなく、リッカルド・ブレンゴラ先生に室内楽を学びました。ブレンゴラさんは64年間もキジアーナで教え、2004年に亡くなったのですが、モーツァルトやベートーヴェンのソナタはそこで初めて習う事が出来たので

す。貴重な経験でした。

キジアーナの夏季講習を通して、ルドルフ・パウムガルトナーさんとも知り合い、それでルツェルン音楽祭弦楽合奏団と共演して演奏会を行う事が出来たりもしました。キジアーナの夏季講習はあらゆる演奏家が若い時代に経験しているもので、昔のアルバムを見ると、アバドも、天才少年だったバレンボイムも、おヒゲの無い若いリッカルド・シャイーさんも写真が残っています。

高校時代から9年間過ごしたケルンも自分のバックグラウンドとして大きな経験を与えてくれた街です。さらに、そこで学んだ先生がロシア人だったので、日本人としての土台の上に、イタリアとドイツとロシアの文化が乗かって、まるでミネストローネのような状態になっているのが、いまの私のようです。最近、海外での取材では「あなたのアイデンティティは？」と尋ねられることが多いのですが、日本人としての感性だけでなく、イタリア的、ドイツ的、ロシア的な部分も演奏の中に出ていて、それがそうした質問につながっているようです。

しょうじ・さやか 1999年、バガニーニ国際ヴァイオリン・コンクールにコンクール史上最年少、また日本人初の優勝を獲得して以来、国際的なソリストとして活躍。オーケストラとの共演の他、リサイタルや室内楽にも力を注いでいる。9月26日にはドイツ・グラモフォンより、ジャンルカ・カシオーリ共演の『ベートーヴェン：ヴァイオリン・ソナタ集』第2弾を発売予定。使用楽器は、上野製菓株式会社より貸与された1729年製ストラディヴァリウス“Recamier”。

REVIEW

2012.7→8

彩の国のアーツ

PLAY 8月17日～9月2日

彩の国シェイクスピア・シリーズ第26弾『トロイラスとクレシダ』



男性キャストのみによるオールメー・シリーズ初の悲劇は、蜷川幸雄演出のもと、若者たちの迸るエネルギーとベテラン陣の堅い演技が絶妙なコントラストを見せ、疾走感と奥深さが拮抗する舞台となった。純愛、裏切り、誤解、嫉妬、皮肉、怒り、欲望、絶望など人間のあらゆる感情が鮮やかに浮き彫りとなり、埋もれたシェイクスピア作品の魅力を再発掘したといえる。恋人たちの悲劇と相反して熱い武将たちの人間模様は喜劇的でもあり、道化のスパイスも極上。咲き乱れるヒマワリが舞台上を埋め尽くし、トロイ軍の白、ギリシャ軍の青と相まって、「色」の記憶も強烈に脳裏に焼き付けられた。

Photo ◎ 渡部孝弘



DANCE 7月6日～8日



Noism1 見世物小屋シリーズ 第3弾『Nameless Voice ～水の庭、砂の家』

環境問題の中でも深刻な局面を迎えるといわれている「水」がテーマ。舞台は空のペットボトルが散らばり、空からは砂が降ってくる。でもぎりぎりのところで希望を見だし絶望はしない。隙のないソリッドなダンスによって名もなき声を叫ぶNoism1のダンサーたちは圧巻。観賞後しばらくたってからもめられた様々な思いが感じられる奥深い作品。

Photo ◎ 池上直哉

MUSIC 8月28日

埼玉会館ランチタイム・コンサート 第19回 大島文子&直子 デュオ ～姉妹で紡ぐクラリネットとピアノの響き～

フランス近代の作曲家ブーランクやドビュッシーによるクラリネットの名曲のほか、《箱根八里》《赤とんぼ》など山田耕筰の日本の歌を披露。歌詞に込められた想いや情景を、クラリネットが情感豊かな音色で、まるで語りかけるように表現した。最終曲の《ヴェルディの歌劇『リゴレット』による幻想曲》では、クラリネットの超絶技巧とピアノの軽やかな音色が絶妙に絡み合い、普段ソロで聴く機会の少ないクラリネットの魅力を余すところなく披露した。

Photo◎加藤英弘

PLAY 7月12日～29日

井上ひさし生誕77フェスティバル2012 こまつ座&ホリプロ公演『しみじみ日本・乃木大将』



明治天皇の死に殉じた乃木希典夫妻の最後の1日を、將軍の愛馬たちが回想するという井上ひさしの奇想天外さに、観客もしばし唖然。馬の「足」に扮した俳優たちの体を張った熱演は軽演劇ふうでもあり、爆笑の連続だった。だがやがて天皇制という大命題がアイロニカルに浮かび上がり、日本の来し方に思いを馳せずにはいられない。「ふかいことをおもしろく」をモットーとした井上ひさしの面目躍如たる傑作を、蜷川幸雄が正攻法で賑やかに具現化した。

Photo ◎ 宮川舞子

PLAY 8月24日

オックスフォード大学演劇協会 (OUDS) 『から騒ぎ』



イギリスの名門学生劇団 OUDS の来日公演。シェイクスピア中期を代表する喜劇『から騒ぎ』に新たな解釈を加え、舞台設定を1950年代シチリアのマフィアの世界に移して上演した。全ての役を現役学生のみで演じる中、特にベネディックとヘアトリスを演じた主役の2人がみずみずしい演技を見せ、ダンスシーンも秀逸。若者ならではのエネルギーが溢れる熱のこもった舞台となった。

Photo ◎ 池上直哉

PLAY		DANCE		MUSIC		CINEMA	
9 september	開演時間		開演時間			9 september	
15 土						土 15	
16 日						日 16	
17 月祝						月祝 17	
18 火		臨時休館日 (彩の国さいたま芸術劇場)				火 18	
19 水						水 19	
20 木						木 20	
21 金						金 21	
22 土祝						土祝 22	
23 日						日 23	
24 月		臨時休館日 (彩の国さいたま芸術劇場)				月 24	
25 火						火 25	
26 水						水 26	
27 木						木 27	
28 金						金 28	
29 土						土 29	
30 日						日 30	
10 october						10 october	
1 月						月 1	
2 火						火 2	
3 水						水 3	
4 木						木 4	
5 金		臨時休館日 (熊谷会館)				金 5	
6 土						土 6	
7 日						日 7	
8 月祝						月祝 8	
9 火						火 9	
10 水						水 10	
11 木						木 11	
12 金						金 12	
13 土	13	彩の国さいたま寄席 四季彩亭 ～柳家喬太郎と おすすめ若手落語会	15:00			土 13	
14 日						日 14	
15 月		臨時休館日 (彩の国さいたま芸術劇場)				月 15	
16 火	16		19:00			火 16	
17 水			14:00			水 17	
18 木			14:00			木 18	
19 金			14:00			金 19	
20 土						土 20	
21 日						日 21	
22 月						月 22	
23 火			14:00			火 23	
24 水			19:00			水 24	
25 木			14:00			木 25	
26 金	26		14:00			金 26	
27 土						土 27	
28 日						日 28	
29 月						月 29	
30 火		臨時休館日 (彩の国さいたま芸術劇場)				火 30	
31 水						水 31	
11 november						11 november	
1 木						木 1	
2 金						金 2	
3 土祝		2 dance on screen 2012	19:00			土祝 3	
4 日		4	13:00			日 4	
5 月		臨時休館日 (彩の国さいたま芸術劇場)				月 5	
6 火						火 6	
7 水						水 7	
8 木						木 8	
9 金						金 9	
10 土						土 10	
11 日						日 11	
12 月		臨時休館日 (彩の国さいたま芸術劇場)				月 12	
13 火						火 13	
14 水						水 14	
15 木						木 15	
16 金						金 16	
17 土						土 17	
18 日						日 18	
19 月						月 19	
20 火						火 20	
21 水						水 21	
22 木						木 22	
23 金祝			19:00			金祝 23	
24 土			14:00/19:00			土 24	
25 日			14:00			日 25	
26 月						月 26	
27 火						火 27	
28 水						水 28	
29 木						木 29	
30 金						金 30	

★特に記載のないものは彩の国さいたま芸術劇場にて開催します。

3歳以上のお子様から楽しんでいただける公演です。
光の庭プロムナード・コンサートには年齢制限はありません。

PLAY

“ザ・ファクトリー1”
さいたまゴールド・シアター
『白鳥の歌』『楽屋』

チケット発売日 一般：9月22日(土・祝)
メンバーズ：9月21日(金)

詳細は
⇒ P.8

PLAY

“ザ・ファクトリー2”
さいたまネクスト・シアター
テネシー・ウィリアムズ短編集連続上演
『ロング・グッドバイ』ほか3篇

チケット発売日 一般：9月22日(土・祝)
メンバーズ：9月21日(金)

詳細は
⇒ P.8

PLAY

【提携公演】『トロイアの女たち』

チケット発売日 一般：10月13日(土)
メンバーズ：10月6日(土)

詳細は
⇒ P.9

PLAY

彩の国さいたま寄席 四季彩亭
～林家たい平 新春落語特選会

新春の四季彩亭は埼玉県秩父市出身の
人気落語家 林家たい平が出演。新年
にふさわしく、若手落語家たちとにぎや
かな高座を繰り広げます。

Photo◎加藤英弘

チケット発売日 一般：10月13日(土)
メンバーズ：10月6日(土)

日時：2013年1月17日(木) 開演19:00
会場：彩の国さいたま芸術劇場 小ホール
出演：林家たい平、春風亭柳朝、桂 枝太郎
林家たけ平
チケット(税込) 一般3,000円 メンバーズ2,700円
ゆうゆう割引(65歳以上・障がい者) 2,000円

DANCE

dance on screen 2012

チケット発売日 一般：9月30日(日)
メンバーズ：9月29日(土)

詳細は
⇒ P.10
~11

DANCE

アクラム・カーン『DESH-デッシュ』

インド古典舞踊とコンテンポラリーダン
スとを融合させた独自のスタイルで世
界的な活躍を続けるアクラム・カーン、
待望のソロ最新作。

Photo◎ rankin

チケット発売日 一般：10月6日(土)
メンバーズ：9月29日(土)

日時：2013年1月26日(土) 開演16:00
27日(日) 開演15:00
会場：彩の国さいたま芸術劇場 大ホール
チケット(税込) 一般：S席5,000円/A席3,500円
(学生2,500円)
メンバーズ：S席4,500円/A席3,200円

MUSIC

ピアノ・エトワール・シリーズ アンコール!
Vol.1 ラファウ・ブレハッチ



好評のうちに6年目を迎えた「ピアノ・エ
トワール・シリーズ」の出演者が再登場
する「アンコール」がスタート!

Photo◎ Felix Broede

チケット発売日 一般：9月29日(土)
メンバーズ：9月22日(土・祝)

日時：2013年2月2日(土) 開演16:00
会場：彩の国さいたま芸術劇場 音楽ホール
曲目：シマノフスキ/ソナタ第1番、
ショパン/ボロネーズ第3番「軍隊」、第4番、
スケルツォ第3番 ほか
チケット(税込) 一般：正面席5,000円/バルコニー
席4,000円(学生2,000円)
メンバーズ：正面席4,500円

MUSIC

小曾根 真の現在 Vol.3
デュオ with エリス・マルサリス



世界的ジャズ・ピアニスト小曾根 真の
「現在」を追うシリーズ、最終回!

Photo◎ Kiyotaka Saito

チケット発売日 一般：9月29日(土)
メンバーズ：9月22日(土・祝)

日時：2013年2月9日(土) 開演15:00
会場：彩の国さいたま芸術劇場 音楽ホール
出演：小曾根 真(ピアノ)、
エリス・マルサリス(ピアノ)
チケット(税込) 一般：正面席5,500円/バルコニー
席4,000円(学生2,000円)
メンバーズ：正面席5,000円

MUSIC

村治佳織の現在 Vol.1
デュオ with ヴォルフガング・シュルツ



旬のアーティストの「現在」を追う彩の
国オリジナル企画第3弾。絶大な人気
を誇るギタリスト村治佳織を迎え、始動!

Photo◎ Kiyotaka Saito

チケット発売日 一般：11月3日(土・祝)
メンバーズ：10月27日(土)

日時：2013年3月2日(土) 開演15:00
会場：彩の国さいたま芸術劇場 音楽ホール
出演：村治佳織(ギター)、
ヴォルフガング・シュルツ(フルート)
曲目：武満 徹/フルートとギターのための《海へ》、
ピアノラ《タンゴの歴史》より ほか

チケット(税込)
一般：正面席5,000円/バルコニー席4,000円(学生
2,000円)
メンバーズ：正面席4,500円

MUSIC

バッハ・コレギウム・ジャパン
《ヨハネ受難曲》



毎年恒例のBCJ公演。今年はJ. S.
バッハの《ヨハネ受難曲》を604席の贅
沢な空間で。

Photo◎ Marco Borggreve

チケット発売日 一般：11月24日(土)
メンバーズ：11月17日(土)

日時：2013年3月30日(土) 開演16:00
会場：彩の国さいたま芸術劇場 音楽ホール
出演：鈴木雅明(指揮)、ジョアン・ラン(ソプラノ)、
青木洋也(カウンターテナー)、
ゲルト・テュルク(テノール)、
ドミニク・ヴェルナー(バス)
チケット(税込)
一般：正面席8,500円/バルコニー席7,000円(学生
3,000円)
メンバーズ：正面席8,000円

MUSIC

ピアノ・エトワール・シリーズ
Vol.21~Vol.23 & アンコール! Vol.2

来年度もご期待に違わぬラインナップを準備中。詳細
は次号及びホームページで発表!

チケット発売日 【4公演セット券】一般：11月24日(土)
メンバーズ：11月17日(土)

速報!

【チケットの購入方法について】

インターネット



埼玉県芸術文化振興財団

オンラインチケット

「SAF オンラインチケット」で、
発売初日 10:00 から公演前日
23:59 まで受付いたします。

トップページの「チケット購入」からお進みます。
【PC・スマートフォン】http://www.saf.or.jp/
【携帯】http://www.saf.or.jp/mobile/



【クレジットカード決済→コンビニ発券】
※チケット代のほかに、【チケット一枚につき】システム利用料 135 円、
店頭発券手数料 105 円が必要です。

【コンビニ支払い→コンビニ発券】
※チケット代のほかに、【お支払い1件につき】振込手数料 210 円
(代金合計 3 万円以上は 410 円)、【チケット1枚につき】システム
利用料 135 円、店頭発券手数料 105 円が必要です。

電話予約



●チケットセンター

0570-064-939
10:00 ~ 19:00 (彩の国さいたま芸術劇場休館日を除く)
※一部の携帯電話、PHS、IP 電話からは受付できません。

【クレジットカード決済→宅配便で配送】
※チケット代のほかに、【配送1件につき】配送料 300 円が必要です。

【コンビニ支払い→コンビニ発券】
※チケット代のほかに、【お支払い1件につき】振込手数料 210 円
(代金合計 3 万円以上は 410 円)、【チケット1枚につき】システム
利用料 135 円、店頭発券手数料 105 円が必要です。

窓口販売



下記窓口で直接購入いただけます。
電話予約したチケットの引取もできます。

●彩の国さいたま芸術劇場 (10:00~19:00)
●埼玉会館 (10:00~19:00)
●熊谷会館 (10:00~17:00)

※休館日をお確かめの上
ご来場ください。

現金もしくはクレジットカード決済、
その場でチケットをお渡します。
※手数料はかかりません。

財団メンバーのお客様は、いずれの場合も便利な「口座引落」でのお支払い、チケットは無料配送いたします。

MUSIC

ピアノ・エトワール・シリーズ Vol.19
ヤン・リシエツキ

日時：9月29日(土) 開演14:00
会場：彩の国さいたま芸術劇場 音楽ホール
曲目：パッサ／バルティータ第1番
ショパン／12の練習曲 作品25 ほか
チケット(税込)
一般：正面席3,500円／バルコニー席2,500円(学生1,000円) メンバース：正面席3,200円
※バルコニー席・学生席は残席僅少。

MUSIC

庄司紗矢香&
ジャンルカ・カシオーリ
デュオ・リサイタル

日時：10月7日(日) 開演15:00
会場：彩の国さいたま芸術劇場 音楽ホール
曲目：ヤナーチェク／ヴァイオリン・ソナタ
ベートーヴェン／ヴァイオリン・ソナタ第10番
ドビュッシー／ヴァイオリン・ソナタ
シューマン／ヴァイオリン・ソナタ第2番
チケット(税込)
一般：正面席6,000円 メンバース：正面席5,500円
※当初、オール・ベートーヴェン・プログラムを予定しておりましたが、事情により変更となりました。何卒ご了承ください。
※正面席は残席僅少。バルコニー席・学生席は予定枚数終了しました。

PLAY

彩の国さいたま寄席
四季彩亭 ～柳家喬太郎と
おすすめ若手落語会

日時：10月13日(土) 開演15:00
会場：彩の国さいたま芸術劇場 小ホール
出演：柳家喬太郎、柳亭左龍、柳家甚語楼、三遊亭天どん
チケット(税込)
一般3,000円 メンバース2,700円 ゆうゆう割引(65歳以上・障がい者) 2,000円

MUSIC

埼玉会館ファミリー・コンサート
パーカッション★パラダイス

日時：11月10日(土) 開演14:00
会場：埼玉会館 大ホール
出演：パーカッション・ミュージアム(打楽器)
曲目：モーツァルト／きらきら星変奏曲
～みんなでパーカッション体験！～
アプレウ／ティコ・ティコ、ホルスト(菅原 淳 編曲)／組曲《惑星》より《木星》ほか
チケット(税込)
大人2,000円 子ども(3歳～中学生) 1,000円
※3歳未満のお子様の入場はご遠慮ください。

【関連企画】
打楽器ワークショップ「キミもパーカッショニスト！」
日時：11月10日(土) 開講12:00
会場：埼玉会館 大ホールホワイエ
対象：同日14:00からのコンサートのチケットをお持ちの小・中学生
※往復はがきにて要事前申込み(10/3必着)。詳細は財団ホームページ<http://www.saf.or.jp>にて。

DANCE

バットシェバ舞踊団
『Sadeh21ーサデ21』

MUSIC

ピアノ・エトワール・シリーズ Vol.20
河村尚子

日時：11月25日(日) 開演14:00
会場：彩の国さいたま芸術劇場 音楽ホール
曲目：スクリャービン／左手のための2つの小品
ドビュッシー／ピアノのために ほか
チケット(税込)
一般：正面席3,500円 メンバース：正面席3,200円
※バルコニー席・学生席は予定枚数終了しました。

MUSIC

ダニエル・ハーディング(指揮)
新日本フィルハーモニー交響楽団

MUSIC

埼玉会館ランチタイム・コンサート 第20回
東混ゾリステンが贈る
日本の歌&クリスマス・キャロル

日時：12月21日(金) 開演12:10
会場：埼玉会館 大ホール
出演：東混ゾリステン(東京混声合唱団メンバー) 和田友子・佐藤祐子(ソプラノ)、栗原苑子・小林祐美(アルト)、千葉弘樹・川出康平(テノール)、徳永祐一・佐々木武彦(バス) (予定メンバー)
曲目：通リゃんせ、七つの子、もみの木、もろびとこぞりて、ひいらぎをかざろう ほか
チケット(税込)
全席指定1,000円

MUSIC

埼玉会館ニューイヤー・コンサート2013
ウィーン・MARO・アンサンブル

日時：2013年1月7日(月) 開演14:00
会場：埼玉会館 大ホール
出演：篠崎史紀(第1ヴァイオリン)、白井 篤(第2ヴァイオリン)、佐々木 亮(ヴィオラ)、木越 洋(チェロ)、西山真二(コントラバス)、神田寛明(フルート)、横川晴児・山根孝司(クラリネット)、日高 剛(ホルン)
曲目：J. シュトラウスⅡ／酒・女・歌、美しく青きドナウ ほか
チケット(税込)
一般：S席3,500円／A席2,500円(学生1,000円) メンバース：S席3,200円

3歳以上のお子様から楽しんでいただける公演です。

THEATER BRIDGE

REPORT

サポーター会員による
鑑賞会・懇談会を開催しました

(公財)埼玉県芸術文化振興財団は、蛭川幸雄芸術監督のもと、埼玉県の芸術文化の発信拠点として様々な活動に取り組んでいます。活動にあたっては、多くの方から「サポーター会員」として多大なご支援をいただいております。8月26日には、サポーター会員の皆様をお招きして、彩の国シェイクスピア・シリーズ第26弾「トロイラスとクレシダ」を鑑賞いただいた後、上田埼玉県知事、蛭川芸術監督を交えて懇談会を開催しました。現在、県内企業をはじめとする80の法人等の皆様に会員になっていただいております(裏表紙参照)。サポーター会員の募集は随時行っています。皆様からの温かいご支援をお待ちしております。



上田埼玉県知事と、蛭川芸術監督を交えた懇談会の様子

REPORT

埼玉県立芸術総合高等学校の生徒を
対象に「舞台技術講座」を開催しました

埼玉県立芸術総合高等学校で舞台芸術を学ぶ生徒たちが、当劇場の技術スタッフの指導の下、舞台・音響・照明などの舞台技術に関する講習を行う「舞台芸術講座」が今夏も開催されました。埼玉県立芸術総合高等学校の授業の一環として毎年開催される本講座に、今年は38名の生徒が参加。8月26日～30日の計5日間にわたり実践的な講習を受けました。初日は、彩の国シェイクスピア・シリーズ第26弾「トロイラスとクレシダ」を鑑賞し、終演後は舞台上で、道具類や衣裳などを間近に見ながら、白石英輔舞台監督より舞台裏の仕事についてお話をお聞きしました。最終日には、5日間の講習の集大成として小ホールにて発表会を行いました。



終演後の舞台上で舞台監督から説明を受ける参加者

メンバーズに入会すると便利で楽しい特典がいっぱい!!

年会費2,000円

特典その1
メンバーズ料金

財団指定の公演でメンバーズ料金

特典その4
財団情報誌をお届け

公演情報満載の「埼玉アーツシアター通信」をお送りします

特典その2
優先予約

一般発売よりも先に人気公演のチケット販売

特典その5
チケット送料無料

チケットは「安心のセキュリティバック(補償付き)」でお届け

特典その3
チケット購入はキャッシュレス

チケット代、年会費は便利な口座引落し

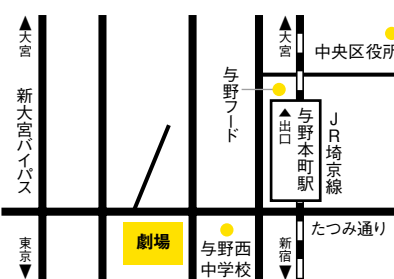
特典その6
プレオーダー

人気の公演では優先予約に先駆けてプレオーダーを実施 ※プレオーダーは抽選

ご入会希望の方は、メンバーズ事務局 TEL: 048-858-5507

ACCESS MAP アクセスマップ

[彩の国さいたま芸術劇場]



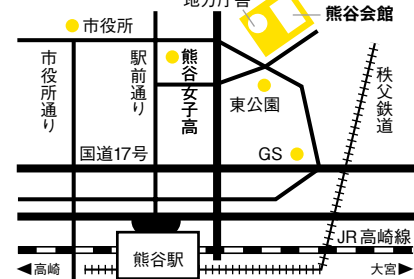
〒338-8506 埼玉県さいたま市中央区上峰 3-15-1
電話：048-858-5500 (代) ファックス：048-858-5515
●電車でのアクセス
→ JR 埼京線と野本町駅(西口)下車 徒歩7分
●バスでのアクセス
→ JR 京浜東北線浦和駅から西武バス大久保行き「彩の国さいたま芸術劇場入口」下車 徒歩2分

[埼玉会館]



〒330-8518 埼玉県さいたま市浦和区高砂 3-1-4
電話：048-829-2471 (代) ファックス：048-829-2477
●電車でのアクセス
→ JR 宇都宮線・高崎線・京浜東北線浦和駅(西口)下車 徒歩6分

[熊谷会館]



〒360-0031 埼玉県熊谷市末広 3-9-2
電話：048-523-2535 (代) ファックス：048-523-2536
●電車でのアクセス
→ JR 高崎線熊谷駅(北口)下車 徒歩15分

※駐車台数に限りがありますので、ご来場の際はなるべく公共交通機関をご利用ください。

彩の国シネマスタジオ

LINE UP 2012.9～12

料金：大人1,000円／小中高生800円(当日支払いのみ)
※12月の黒澤明監督特集(会場：熊谷会館)は、大人・小中高生とも1作品500円



9月21日(金)～23日(日)

会場：彩の国さいたま芸術劇場 映像ホール

『アーティスト』

©La Petite Reine・Studio 37・La Classe Américaine・JD Prod・France 3 Cinema・Jouror Productions・uFilm

21日(金) 10:30 / 13:15 / 16:20 / 19:00
22日(土・祝) 10:30 / 13:15 / 16:00 / 18:45
23日(日) 10:30 / 13:15 / 16:00 / 18:45

※21日(金) 13:15 上映終了後、映画評論家・石子 順氏によるアフタートークがあります。

監督：ミシェル・アザナヴィシウス
出演：ジャン・デュジャルダン、ベレニス・ベジョ ほか (2011年/フランス/101分)



©2011「長岡映画」製作委員会・PSC

10月12日(金)～14日(日)

会場：彩の国さいたま芸術劇場 映像ホール

『この空の花ー長岡花火物語』

12日(金) 11:00 / 14:40 / 19:00
13日(土) 10:30 / 14:10 / 17:50
14日(日) 10:30 / 14:10 / 17:50

監督：大林宣彦
脚本：長谷川孝治、大林宣彦
出演：松雪泰子、高嶋政宏、原田夏希、猪股 南 寺島 咲 ほか(2011年/日本/160分)

※12日(金) 14:40 上映終了後、大林宣彦監督によるアフタートークがあります。

※12日(金)11:00 上映回は聴覚障がい者用の日本語字幕および視覚障がい者用の音声ガイドがつきます。音声ガイドにはイヤホン付FMラジオ受信機を使用しますので、お聴きになる方はご持参ください。



©TAG/TRAUM 2010

『ピナ・パウシュ
夢の教室』

11月9日(金)～11日(日)

会場：彩の国さいたま芸術劇場 映像ホール

9日(金) 10:30 / 13:10 / 16:15 / 18:50
10日(土) 10:30 / 13:10 / 15:45 / 18:20
11日(日) 10:30 / 13:10 / 15:45 / 18:20

※9日(金) 13:10 上映終了後、フリーライター・佐藤友紀氏によるアフタートークがあります。

監督：アン・リンセル
出演：ピナ・パウシュ、ベネディクト・ピリエ、ジョセフィン＝アン・エンディコット ほか (2010年/ドイツ/89分)



©CHIHIRO ART MUSEUM

12月7日(金)～9日(日)

会場：彩の国さいたま芸術劇場 映像ホール

『いわさきちひろ～27歳の旅立ち～』



『酔いどれ天使』

12月19日(水)～20日(木)

会場：熊谷会館

優秀映画鑑賞推進事業 黒澤明監督特集

『酔いどれ天使』『羅生門』
『生きる』『天国と地獄』

※熊谷会館での上映となりますのでご注意ください。

（株）与野フードセンター／（株）亀屋／武州ガス（株）／（株）松本商会／（有）香山壽夫建築研究所／埼玉新聞社／（株）テレビ埼玉ミュージック／埼玉りそな銀行（株）パシフィックアートセンター／（株）アサヒコミュニケーションズ／FM NACK5／東京ガス（株）／カヤバ システム マシナリー（株）／（株）タムロン／（株）十万石ふくさや森平舞台機構（株）／東芝エルティエエンジニアリング（株）／埼玉トヨタ自動車（株）／（有）齋賀設計工務／ゲレッツ・ジャパン・スズゼン（株）／武蔵野銀行浦和ロイヤルバインズホテル／アルビーノ村／国際照明（株）／（株）サイサン 会長 川本宜彦／三国コカ・コーラボトリング（株）／埼玉スバル／橋本興業（株）（株）佐伯紙工所／（株）太陽商工／（株）しまむら／（有）六辻ゴルフセンター／不動産発（株）／ビストロ やま／埼玉県信用金庫／（株）栗原運輸／彩の国SPグループ（有）プラネッツ／関東自動車（株）／（株）デサン／（株）中島運輸／セントラル自動車技研（株）／丸美屋食品工業（株）／ボラスグループ／ひがし歯科／埼玉トヨペット（株）公認会計士 宮原敏夫事務所／（株）価値総合研究所／（株）埼玉交通／医療法人 顕正会 蓮田病院／（株）ウイズネット／サイデン化学（株）／アイル・コーポレーション（株）五光印刷（株）／旭ビル管理（株）／ヤマハサウンドシステム（株）／（株）エヌテックサービス／（株）クリーン工房／（株）つばめタクシー／（株）サンワックス／（株）総合舞台（株）タクトコーポレーション／広総業（株）／（財）さいたま住宅検査センター／（株）コマム／（株）国大セミナー／（株）NEWS エンターテインメント／（株）オーガス／イープラス六三四堂印刷（株）／医療法人 樺会 林整形外科／埼玉県整形外科医会／医療法人社団 山粋会 山崎整形外科／サンケイリビング新聞社／（株）三和広告社／（株）セノン

H24.8.15 現在／一部未掲載

【問合せ先】（公財）埼玉県芸術文化振興財団 営業宣伝課 サポーター会員担当 TEL 048-858-5507



なぜイスラエルではダンスが熱いのか？

文◎乗越たかお（作家・ヤサくれ舞踊評論家）

ひとつには国家成立の背景と関係がある。現在のイスラエルという国家は第二次大戦後に世界中のユダヤ人が集まって作ったものだからだ。ユダヤ教という根底こそ共有しているものの、言葉も生活文化も違う国で育った人々が「同じ国民」としてのアイデンティティを持つために、言葉を超えて楽しめるダンスはとても重要な役割を持っていたのである。アウシュ

ビッツの生き残りであるユディット・アーノンによるキブツ・ダンス・カンパニーは世界的な評価を得た。

だが現在の隆盛のきっかけになったのは、1990年。テルアビブの旧市街にダンスの殿堂となるスザンヌ・デラル・センターができてからである。そしてこの年、オハッド・ナハリンが芸術監督になったばかりのバットシェバ舞踊団がレジデンス・カンパニーとして滞在することになった。ナハリンは同団を瞬

く間に一流のカンパニーに成長させていくことになる。

そしてユーモラスな魅力のインバル・ピントのカンパニー、強いコンセプトを濃密な動きに練り込んだスタイルのヤスミン・ゴデールなどが登場し、強くて多彩なダンスが生み出されているのである。

バットシェバ舞踊団の若手カンパニーは、イスラエル中の学校をバスで回り、無条件に楽しい、一流のダンスを子ども達に見せて回る。またナハリンが作った身体メソッド「GAGA」を一般の人用に改良したものが、日本のラジオ体操感覚で親しまれている。イスラエルではダンスは「わざわざ見に行くもの」以上に、日常の基本部分にまで浸透しているのだ。



インバル・ピント・カンパニー
「Hydra ヒュドラ」（2007年 彩の国さいたま芸術劇場）
Photo ◎瀬戸秀美



バットシェバ舞踊団 初来日公演
「IZ/na ジーナ」（1997年 彩の国さいたま芸術劇場）
Photo ◎池上直哉

